

青雲の志

岩手県立花北青雲高等学校
校長通信 第58号
令和5年2月21日発行
文責 校長 佐々木 伸良

2/15(水) 2年 総合生活科 『課題研究』発表会

2月15日(水)、総合生活科2年D組において、『課題研究』発表会が行われました。発表会では、『課題研究』にこの1年間取り組んできた3つの研究班の取組と成果の発表がありました。総合生活科1年D組の生徒も発表会に参加し、4月から取組む『課題研究』について、何を選択し、どのように取組むべきか参考にしていました。



【ビジネス研究班 漢字クイズ】



【家庭クラブ研究班 学校家庭クラブ】
～地域のお花で健康に～



【保育研究班 ハンドベル演奏】

2/21(火) 1、2年 総合生活科 『職業人に聴く会』



2月21日(火)、総合生活科1、2年の授業において、地域の人材を活用し、『職業人に聴く会』を実施しました。

講師は、にじいろ子ども園保育教諭 菊池萌依さん(花北青雲卒)にお話し、高校時代から現在までの状況や仕事に対する考え方などについて詳しく話していただきました。

子どもの頃から、保育士や幼稚園教諭に憧れを抱き、本校の総合生活科に入学、授業で学んだ折り紙の折り方が、仕事の上で役に立っていることや、大学、短期大学、専門学校の違いを知り、自分に合った進路選択をするようにとアドバイスをいただきました。

短期大学では、保育実習、幼稚園実習、施設実習があり、施設実習では、障がいを抱えた子どもへの接し方に苦労したけれども、今ではそのことが役に立ち、貴重な経験であったとのことでした。

また、学費の面で親の負担を少しでも軽くするため、学業に取り組み、成績優秀者として特待生となり、短大から20万円の奨学金をいただいたそうです。

現在は、5歳児を担当していますが、子ども達の成長や子ども達から「あのね…なの」と声を掛けられることで、この仕事を選んで良かったとやりがいを感じていました。

また、仕事でうまくいかないこともたくさんありますが、職場環境に救われているそうです。悩みを聞いてくれる先輩がいることが、その職場で仕事を続けられる要件だと語られていました。同様に、高校時代や短大時代の友人も大きな支えとなっているので、友人を大切にしたいとのことでした。

将来、保育士を目指す生徒にとって、多くの気づきがあり、貴重な内容でした。これからの高校生活で身につけておくべきことがたくさんあり、とても参考になりました。